

## 【みずたまり】

三日間降り続いた大雨が、ようやくあがった翌朝。

登校のとき、足がかかったるので、くつを脱いでみると、左足の土踏まずが明らかにふくれています。

怪我でふくれている感じではなくて、瘤（こぶ）とり爺さんの、ほっぺたの瘤に似たふくれかたなのです。

ですから、瘤の付け根の部分はほんの少ししかない。

痛くはない、痛くはないが、感じは良くない。

体中の汚いものが、ここに集中した感じ。

なにしろ歩きにくいので、ぼくは尖端が鋭い石を見つけて、それで突いてみました。

かなり強くやっても、破れない。

ぼくは途方にくれながらも、ぼくなりにかんがえました。

道のあちこちに、水たまりができています。

(大雨の後は、道には、水たまりができるのだから、大雨の後は、人間の身体にも、水たまりができるのは当然なのだ)

そう結論づけたぼくは、晴れの日が続けば、水たまりは消えるのだから、ぼくの水たまりも消えるはずだと、一安心しました。

それから晴れの日が何日も、たぶん一ヶ月くらい続いたのですが、道の水たまりは消えても、ぼくの水たまりは、いっこうに消える気配がありません。

こうなったら手術するしかない。

ぼくは、家の庭で焚火をしました。

台所から庖丁を持ってきて、焚火の火に炙（あぶ）って、消毒をすると、瘤の付け根を庖丁で切り取り、傷口に焚火の灰をまぶして消毒をしました。

お医者さんごっこ、終了。

ちなみにぼくの家は、医者にかかるお金がないので、薬は薬草を採ってきて作り、手術はいつもこうしてやったものです。

それでも治らないときは、懐爺になんとかしてもらいました。

それはともかく、その手術で、ぼくの水たまりが、完治したかですって。

面倒な病気は必ず再発するもので、ぼくはそういうこともわかっていましたから、水たまりが発生するたびに、手術をしたのです。

そのうち水たまりも、飽きてしまったのでしょう、たしか七回目の手術のあとは、一度も水たまりは発生してはおりません。